

大規模災害時の対応について

駒ヶ根市は東海地震が発生した場合、最大で震度6弱の地震の発生が予測されています。その他にも土砂災害、大雨、大雪等の自然災害の危険があります。ついては災害発生時にとるべき基本的事項を各自で確認し、必要な備えを進めるとともに、発災時は落ち着いて行動できるようにしてください。本学「防災ハンドブック」は常に携帯し、活用しましょう。

1. 地震が起きたら（学内にいる場合）

(1) まず身の安全を確保する

- ・むやみに動かず周囲の安全と避難路の方向を確認する。
- ・倒れやすい物、危険物、ガラス扉、照明器具の直下などから離れる。
- ①姿勢を低く！ ②体・頭を守って！ ③揺れが収まるまでじっとして！
(すばやく頭を覆って、机の下などにもぐる)。

(2) 地震沈静後の行動・・・教員の指示に従って、行動する

- ・非常口やドア等を開けて、避難口を確保する。
- ・エレベーターではなく階段で避難する。エレベーターは自動停止するので動いても絶対に使用しない。(→本便覧(最終頁)「防災避難図」参照)
- ・学内避難場所のグラウンドが危険な時は、教員の指示に従う。

2. 地震が起きたら（学外にいる場合）

- ・身の安全を確保し、むやみに自宅アパートに帰宅することなく、市町村が定める指定の避難所等の安全な場所に避難する。
- ・正確な情報収集に努める(外を見る、ラジオ、テレビから情報を得る)。
- ・家を離れるときは、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を締める。

3. 火災が起きたら・・・一度避難したら絶対戻らない

- ・まず大声で周囲に火が出たことを知らせる「火事だー！」。
- ・火災報知機がなければ事務局に知らせる(内線1111～1119)。
- ・同時に周囲の協力を得ながら、初期消火に努める。
- ・火の勢いが強く天井に燃え移った場合は消火をあきらめ速やかに避難する。

4. 日頃の準備：駒ヶ根市は大規模地震対策特別措置法の「地震防災対策強化地域」

- ・指定されている避難場所を確認(大学付近および自宅周辺など)する。
「駒ヶ根市HP/防災 消防」で検索、ハザードマップや避難場所がわかる。
- ・住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」か確認しておく。
- ・大学の「安否確認システム」へ登録しておく。(→次頁「5. 安否確認システム」参照)
- ・家具等の転倒防止対策、家具の前や照明器具の直下で寝ない、緊急時に備え、妨害物を置かない(特に通路、玄関、消防設備の周囲や駐車場も)。
- ・最低1週間分の備蓄確保(水1人あたり1日3ℓ、食料、日用品)

*周囲を山に囲まれた駒ヶ根市は、交通網が容易に寸断され孤立する恐れがあり、大規模災害においては一般に必要なといわれる期間より長く自活できる「各自での備え」が求められている。

★身近に備えておこう最低限の緊急避難アイテム★

避難アイテム1 【ベッドサイドや防災ベストなど】	避難アイテム2 【少し余裕のある時・ロッカーなど】	その他 便利なアイテム
<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> ラジオ（電池確認）	<input type="checkbox"/> 風呂敷などの1枚布
<input type="checkbox"/> 履き物（閉鎖式が望ましい）	<input type="checkbox"/> 携帯トイレ*（数回分）	<input type="checkbox"/> ラップ・ホイル類
<input type="checkbox"/> ライト（電池確認）	<input type="checkbox"/> 手ぬぐいやタオル、ティッシュペーパー	<input type="checkbox"/> さまざまなサイズのビニール袋やレジ袋（多量）
<input type="checkbox"/> ガウン、防寒具や防寒シート、毛布	<input type="checkbox"/> 携帯電話等の充電ツール	<input type="checkbox"/> 新聞紙（多量）
<input type="checkbox"/> 笛（閉じ込められたときに居場所や危険を知らせる）	<input type="checkbox"/> 水分、一時しのぎの糖分（チョコレートや飴、エネルギー補助食）	<input type="checkbox"/> ビニール手袋
<input type="checkbox"/> 現金類、テレホンカード	<input type="checkbox"/> カッターやナイフ類	<input type="checkbox"/> テープ・紐・紙・文具類
<input type="checkbox"/> ウェット・ティッシュ	<input type="checkbox"/> 傷絆創膏	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー
<input type="checkbox"/> 連絡先メモ（スマホが使えない想定で）	<input type="checkbox"/> 保険証、常備薬、お薬手帳	<input type="checkbox"/> 水備蓄や運搬用タンク
		<input type="checkbox"/> ローソク、ランタン

*携帯トイレ：100円ショップ、ドラッグストア、ホームセンターの交通渋滞対策用品や防災グッズ、介護用品などのコーナーにあり。「簡易トイレ」とは別の物です。

必要な備えには個人差があります。自分に必要なものは何かを常に考えて準備しましょう。

5. 安否確認システム

大学では大地震等が発生した時などに、学生の安否を確認するため「安否確認メール」を一斉送信しています。事前にメールアドレスの登録をしておくことはもちろん、登録後にメールアドレス等を変更した場合は、下記URLから各自の責任で再登録を行って下さい。

<http://mmagkango.ww8.jp/index.php>



6. 有事における大学への安否情報や緊急連絡の方法

1) 大学からの安否確認メールに、すぐに返信する。

(1) 安否確認画面では次の情報を短時間で入力できます。（選択式）

所属、安否情報、安否の詳細（任意）、居場所、学籍番号、氏名（ひらがな入力で）

(2) 正しく安否確認が行われた場合は、次の返信が来ることまで確認してください。

次の返信が確認できない場合は、まだ大学の安否確認が完了していません。

件名：「安否確認しました」

本文：「〇月〇日〇時〇分に、長野県看護大学は安否確認をしました」

2) 大学からの安否確認メールがなくても自分から連絡する。

駒ヶ根市又は現在訪れている場所で『震度5弱以上』の地震が発生した場合は、身の安全を確保した後、大学からの連絡を待つことなく、自分から下記メールアドレスに安否情報（学籍番号、氏名、負傷有無、所在地等）を連絡してください。

【緊急連絡用メールアドレス】 anpi@nagano-nurs.ac.jp

3) メールが使えない、スマホがない・使えないときは可能な方法で自分から連絡する。

(1) 「171 NTT災害用伝言ダイヤル」を利用し安否情報を録音報告してください。

☎171-1-□□□-□□□□-□□□□（□は自分の電話番号）に電話、自動録音する

(2) 友人や家族のつながり、伝令、伝言など、可能な手段を探し、連絡してください。

7. 災害時における授業、実習の取り扱い（→「本便覧（p.26～27）」参照）